

『北はるか畜産通信』

NO1

JA北はるか美深本所・下川支所・中川支所

はじめまして、北はるか畜産通信創刊号です！

農家の皆様、寒さが続く中でのお仕事御苦労様です。

突然ですが、「北はるか畜産通信」と題しまして、皆様の為になる情報や儲けるコツを、JA畜産担当者より心を込めて発信してまいります。中には、当然知っていて既実践している内容も多々あるとは思いますが、基本に返るという意味でも御一読し、保管しておいて下さい。（くれぐれもFAXの裏紙等には使用しないで下さいネ）

困った時の虎の巻になれるよう頑張っていきますので、宜しくお願い致します。



子牛は寒さに弱い！

子牛は皮下脂肪・被毛が薄い為、寒冷ストレスをまともに受けます。人間の新生児は体脂肪約16%に対し新生子牛は約3~4%しかないんです。その為、冷えたコンクリート・金属や隙間風等、様々な要因により子牛の体温・体力はあっという間に奪われてしまいます。（気温20℃で正常に生まれた子牛でも、生後12時間後には体温が1℃も低下すると言われているんです。）

《出生直後の子牛に必要な事》

①呼吸の確認・確保 ⇒ ②ヨーチンでヘソの消毒 ⇒ ③体を拭いて乾かす ⇒ ④初乳の給与



《防寒対策のポイント》

①分娩時には牛床をフカフカに！

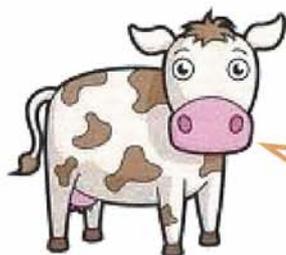
分娩の際には敷料は多めにしておいてあげて下さい。生まれて最初に寝た場所が濡れている所だったらと考えてみると・・・。（僕がその立場だったらもの凄くショックで、病気がちな牛生になってしまう。）分娩はいつ始まるか解りませんが、出来る限り立会をして、難産や親が育児を放棄した場合に備えて下さい。活力が無い時には全身マッサージや簡易的な酸素吸入器もありますので実践してみてください。低体温で生まれた場合は、お風呂に入れてあげて下さい。効果抜群です！（農家談）

②初乳の給与

初乳とは、子牛が最初に飲むミルク！ではなく、分娩して最初に産生されるミルクの事です。人間の赤ちゃんはお母さんのお腹の中で胎盤を通じて抗体を得る事ができますが、牛の場合は胎盤が進化をしておらず、生まれてくる子牛は全て無菌状態で生まれてきます。なので、出来るだけ早めに初乳を飲ませてあげる事が、その後の管理を楽にする1つのポイントなんです。ここでストップ！出生直後は飲みたがらない子牛もいますが、羊水でお腹がいっぱいなのかもしれません。その時に無理に初乳を与えても、お腹の中で羊水と混ざりせっかくの良質初乳が威力半減になってしまいます。つまり、子牛の授乳欲がわいてきてからでOKです！

③保温

最初の方にも書きましたが、子牛は寒さにとても弱い生き物です。手軽で防寒に効果テキメンなのが、カーフジャケットというもので6,000円前後で手に入ります。農家さんの中には使用しなくなった毛布でジャケットを作って着させている方もおられます。暖かそうな牛を見ていると幸せな気持ちになります。でも、床が濡れていてはお腹から冷えてしまいますので、乾いた敷き料が重要です。ハッチで管理されている農家さんの中には、ヒーター等で上から温めてあげている方もあります。電気代や資材費は確かに安くはないと思いますが、温めてあげる事によって同じ代用乳の量でも増体が期待できますので、手間をかけた分以上に必ず返ってきます！（牛も幸せだし）余談ですが、使用しなくなったコタツのヒーターの部分を取り外して、ハッチに付けているのを目にします。コタツは赤外線を使用しており、熱効率が高いんです。これを吸収した牛の体内では熱運動を起こして温度が上昇するので、体の芯から温まれる優れたものです。（オススメ商品！）



最後まで読んでいただきありがとうございます。初回という事で文章のみの見づらな資料になってしまいましたが、次回からは写真・図・表等を取り入れて見やすく出来るよう努力して参ります。
では、次をお楽しみに～！